

令和4年度全国学力・学習状況調査の  
結果をふまえた指導改善策

I 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 上記のような取組みを通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年・義務教育学校第6学年の児童

3 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
  - ・児童に対する調査
  - ・学校に対する調査

4 調査日時

令和4年4月19日（火）～5月10日（火）

II 学力調査の結果【小学校・義務教育学校前期課程】

1 教科に関する調査結果（平均正答率※）

	国語	算数	理科
全 国	65.6	63.2	63.3
広島県	67	64	66
府中市	65	63	63
旭小学校	62	60	59

※平均正答率とは、「児童の正答数の平均」÷「設問数」の値を、%で表わしたものです。

## 2 調査問題の趣旨・内容

区分	調査問題の趣旨・内容例
国語	(例) ○目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える。 ○資料を用いた目的を理解する。 ○目的や意図に応じ、資料を使って話す。 ○文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する。 ○思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中から必要な情報を見付けて読む。 ○目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして、詳しく書く。 ○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる。 ○目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す。 ○目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書く。 ○物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる。
算数	(例) ○1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、それぞれの数量が数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ。 ○任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ。 ○円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く。 ○二次元表の合計欄に入る数を書く。 ○二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述する。 ○料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する。 ○示された式の中の数値の意味を、表と関連させながら解釈し、それを記述する。 ○身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する。

## 3 調査結果にみられる特徴と課題及び今後の改善策

【国語】特徴と課題
<p>◇1 話すこと・聞くことに関して、概ね適切な回答ができています。(一 76.3、二 73.7、三 86.8)</p> <p>◆1 四 自分の考えを踏まえて、問題点の解決方法を書くことができない。(31.6)</p> <p>◆2 物語文における中心人物の心情や物語の伏線、主題等を読み取ることができない。(一 1 (1) 57.9 一 (2) 60.5 二 65.8)</p> <p>◆3 二 自分の良さを整理分類し、明らかにしながら適切に「引用」することができていない。(31.6、無回答 13.2)</p> <p>◆3 三 生活に密着している漢字はよくできているが、なじみのない言葉や、使い慣れていない言葉の定着率が低い。(イ 42.1、ウ 65.8)</p> <p>全体を通して、あらゆる形式の問題を解く経験が少ないためか応用力が低く、初めて読む物語や初めて取り組む問題を理解する力に課題がある。</p>

◇…相当数の生徒ができています点 ◆…課題のある点

### 【国語】改善策

- 記述問題に大きな課題が見られるため、ことば探究科の学習内容を踏まえ、自分の考えを記述する機会を意図的に設け、各学年において段階的に指導していく。具体的には、昼ドや普通の授業の時間等を活用し、字数制限を設けたり、必ず書くことを条件として設定したりして、自分の考えを記述させる機会を設ける。(答え合わせも丁寧に行い、書く経験を増やす。)
- フレームリーディングによって、全体を捉える読み方を低学年のうちから指導を繰り返し、物語の構造や、文章構成を捉える力の習得を目指す。
- 単元末のまとめや、単元の導入として、教材以外の文章を読む授業を行う。その際、物語の構造や主題等も大枠で読み取っていく。

### 【算数】特徴と課題

- ◇ 4 (2) (3) 図形の構成要素について概ね理解している。(2)81.6、(3)73.7
- ◆ 1 (4) 生活場面によって、どのような概数にして考えればよいのか判断できていない。買い物経験(どんぶり勘定)の不足も考えられる。(34.2)
- ◆ 2 (3) 問題文を読み、場面を想定することができていない。「果汁の割合」の意味の理解ができていない。(7.9)
- ◆ 2 (4) 文章問題の条件に応じた回答ができていない。必要な条件を明確にして、説明の文章に入れることができていない。(42.1)
- ◆ 3 (2) 分析の根拠となる問題中の会話文を読み取れておらず、表の見方も理解できていない。(52.6)

### 【算数】改善策

- 各学年の授業において、学習指導要領の内容を踏まえるとともに、生活経験に照らした視点で、授業内容を工夫して指導する。また、算数用語を確実に理解させるとともに、身近な生活場面や事象に置き換えて考え実感させる。
- 文章問題の学習時において、口頭での説明だけでなく、文章で表す学習も行う。その際に、学年に応じて条件を示すなどして、条件を使用した説明の仕方に慣れさせる。
- 表やグラフなどの見方や数値、項目の表す意味を様々な視点から考えさせる。

### 【理科】特徴と課題

- ◇ 1 (1)、4 (1) 提示されたグラフなどの資料を読み取り、必要な情報を選択したり、関連付けたりすることができている。(1)94.7、4(1)78.9
- ◆ 2 (1) メスシリンダー(器具)等の名称が定着していない。(47.4)
- ◆ 2 (4) ある事象や実験結果をもとに類推したり、新たな課題を見つけたりすることができない。(28.9)
- ◆ 3 (1) 日光が直進するということを理解できていない。あるいは題意を理解できていない。(21.1)
- ◆ 3 (4) 相手に分かりやすく説明する方法が身に付いていない。(主語、接続語、根拠の書き方)(34.2)
- ◆ 4 (2) 予想の文言を根拠として考えることができていない。(50.0)

### 【理科】改善策

- 学習したことと生活経験（日常の事象）がどう結びついているのか常に関係づけていく。
- 理科においても、論理的な思考を表現することに課題があるため、国語科やことば探究科を中心に、説明する文章の書き方を身に付けさせる。
- 理科の実験器具（今回はメスシリンダー）の名称や使用用途を理解・定着させるために、実際に何度も手に触れ、何のために使用するのか授業の中でおさえると同時に、教室掲示等で視覚的にも名称を反復させる工夫を行う。
- 観察・実験における、予想、方法の検証、仮設、結果による考察、結論付けの学習を丁寧に行う。

## Ⅲ 学習状況調査の結果

### 1 学習状況調査（児童質問紙）の結果にみられる傾向

#### 肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも高かった項目

- （25）読書を比較的好くする。（ほぼ毎日～月1～3回程度 47.4）
- （27）自然の中で遊んだり自然観察をしたりすることが多い。（84.2）
- （28）（29）地域行事や地域の大人との関わりが深い。（(28)55.2、(29)79）
- （33）授業中での ICT 機器活用。（ほぼ毎日、週3回以上 57.9）
- （53）算数の勉強が好き。（73.6）

#### 肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも低かった項目

- （5）（6）ゲームや動画視聴の時間が比較的長い。  
（少なくとも1時間以上利用する児童が(5)86.9、(6)60.6）
- （14）近くの大人や先生に相談しにくい。（55.3）
- （41）学習をもとに、新しいものを作り出す活動経験の少なさ。（57.9）
- （51）（55）国語や算数の授業の理解の低さ。（(51)68.4、(55)73.7）
- （62）理科の学習を大切と捉えていない。（71.1）
- （68）理科の実験でわかったことを考えていない。（71.1）

### 2 生活習慣・学習環境などに関する改善のポイント

- （5）（6）校内の他学年の児童の現状についても把握するとともに、保護者に注意喚起及び声かけの依頼を行う。また、健康教育部のアウトメディア週間の取り組み時にも重ねて現状を伝え、取り組む。